

アクセス

※お出掛けは、名鉄電車、名鉄バスが便利です。



<p>[東名阪自動車道] 弥富ICから約15分 蟹江ICから約15分</p>	<p>[名鉄津島線] 名鉄名古屋駅から約30分</p>
<p>[名神高速道路] 岐阜羽島ICから約35分</p>	<p>[名鉄バス] 名鉄バスセンターから約50分</p>
<p>[東海北陸自動車道] 一宮稲沢北ICから約30分</p>	<p>[名鉄尾西線] 名鉄弥富駅から約10分</p>

インスタで津島の魅力を発信中!

@愛知県津島市



「#津島PR応援団」であなたも応援団員!

@津島PR応援団



Watch
The Video!

つしま
PR動画



発行/令和7年3月
発行元/愛知県津島市

※本書に掲載した情報は令和7年1月時点のものです。
今後変更されることがありますのでご了承ください。

日本語版
Japanese



ゆったり、のんびりと
津島の魅力を発見!

ぶらっと

つしまち旅手帖



歴史文化、自然に 出会えるまち

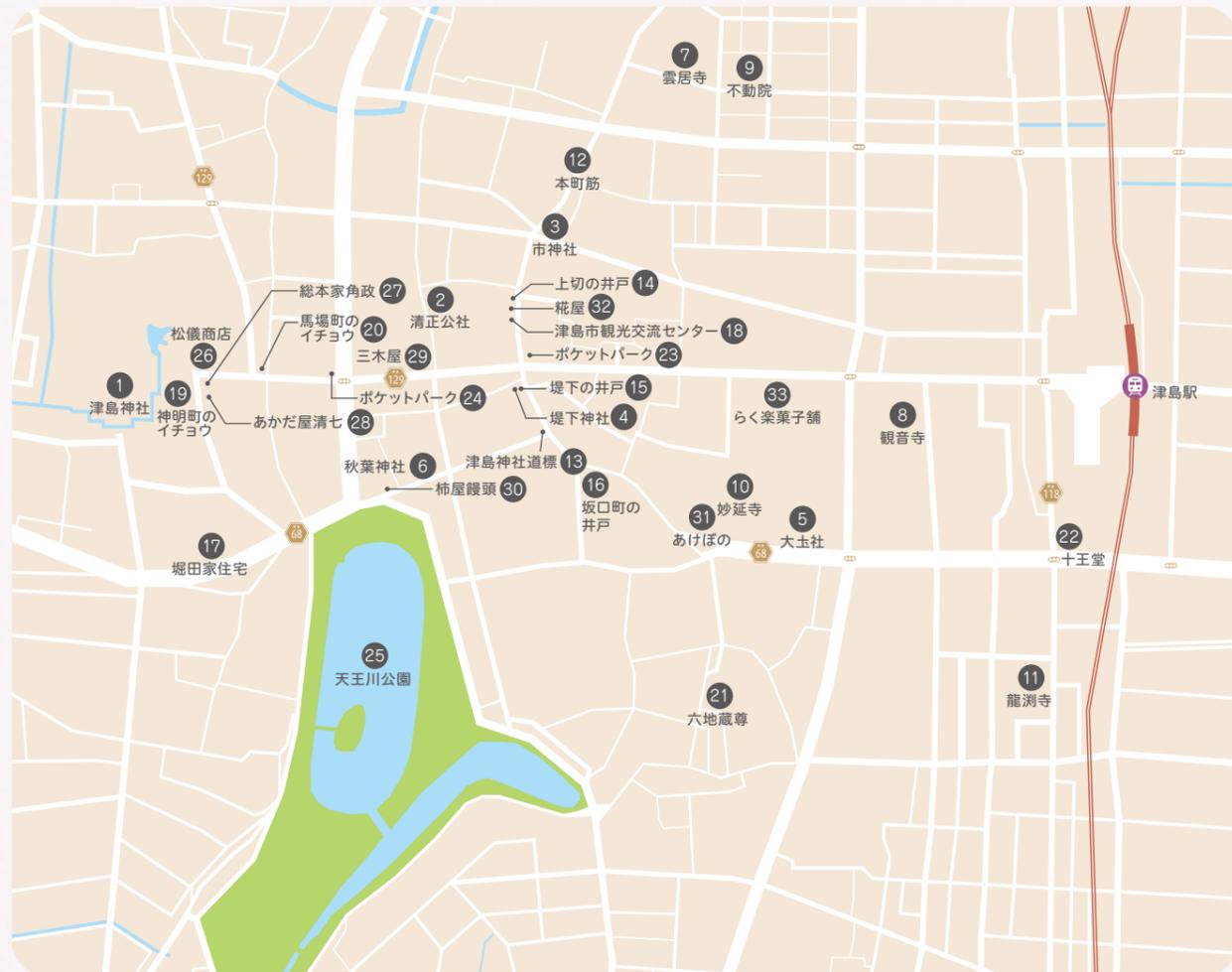
あなただけが感じる魅力がここにある！

津島市は津島神社の門前町、木曾川の支流であった天王川の流れを利用した湊町として発展しました。

西暦540年に創建され、全国に3,000社以上ある天王信仰の総本社「津島神社」や、日本三大川祭のひとつで、ユネスコ無形文化遺産に登録された「尾張津島天王祭」など、歴史と文化が息づくまちです。戦国時代に活躍した織田信長や豊臣秀吉など多くの戦国武将とゆかりが深いまちとしても知られています。

津島には、神社、寺院、名所・旧跡、公園など多くの観光スポットがあり、まだ知られていない魅力がたくさんあります。

津島のまちを巡りながら、あなただけが感じる魅力を発見してみませんか。



CONTENTS

- つしまの歴史文化に触れよう…………… 3～8
- つしまの自然を感じよう…………… 9～10
- つしまのお祭りを楽しもう…………… 11～12
- つしまの名産を堪能しよう…………… 13～14



津島市文化遺産 ナビアプリ



「津島市文化遺産ナビ」では、常時4つの散策コースを紹介しています。「スタンプ帳」機能を使っていずれかのコースを選択し、歩いてスポットに近づくスタンプがゲットできます。



アプリ
ダウンロード

つしまの 歴史文化 に触れよう



全国に 3,000 社以上ある
天王信仰の総本社
津島神社

1

西暦540年に創建され、全国に3,000社以上ある津島神社の総本社。京都の八坂神社と並ぶ天王社として崇められています。江戸時代には、江戸からの伊勢参りの折に参拝することがならわしとなっており、伊勢神宮だけでは片参りとされていました。現在も「津島さん」、「天王さん」と呼ばれて親しまれ、年間約100万人の参拝者が訪れます。
御祭神は建速須佐之男命で、「疫病厄難除け」の神様として古くから信仰されており、「津島牛頭天王社」と呼ばれていました。

戦国時代に活躍した武将とも

ゆかりが深い

社紋

津島神社の社紋は、織田家の家紋の木瓜紋と同じです。織田信長は、津島神社を深く信仰したと伝えられています。



楼門

楼門は、豊臣秀吉が寄進しました。国の重要文化財に指定されています。



本殿

本殿は、徳川家康の四男で清洲城主であった松平忠吉の健康を祈願した妻政子が寄進しました。国の重要文化財に指定されています。



南門

南門は、豊臣秀吉の息子の秀頼が寄進しました。県の有形文化財に指定されています。

おすすめ!

花まいり



毎月1日と15日に、津島神社南門付近の手水に色とりどりの花が飾られています。飾り付けは、巫女さんが行っています。

ついたち 朔日参り御朱印



毎月1日限定の御朱印を頒布。季節に合わせた絵柄の御朱印をご用意されています(絵柄は毎月変わります)。

まだまだあるよ!

市内の神社

市内には、津島神社以外にいくつもの神社があります。ここでは一部を紹介します。

商売繁盛・稲の神

いちがみしゃ

市神社 3



津島神社の境外末社の1つ。弘和元年(1381年)に創建。主祭神は市比売命で、市場の守り神として伝えられています。商売繁盛にご利益があり、現在でも多くの方が訪れます。

子宝への願い

おおつちしゃ

大土社 5



津島神社の境外末社の1つ。明治36年(1903年)に創建。境内裏には珍しい石(陽石)があり、男女が一緒に参拝後、手を触れてお祈りすると子宝が授かるとの言い伝えがあります。



加藤清正とゆかりが深い

せいしょうこうしゃ

清正公社 2



明治18年(1885年)に創建され、戦国武将の加藤清正を祀っています。清正は、幼少時代に住んでいた津島で鬼の面をかぶって盗賊を追い払ったと伝えられています。

幼児の夜泣き封じにご利益

とうげじんしゃ

堤下神社 4



天明5年(1785年)に天王川がせき止められた以前、ここは天王川を挟んで津島神社をお参りする選択所であったと伝えられています。

天王川公園の近くに鎮座

あきばじんしゃ

秋葉神社 6

(橋詰町)



秋葉神社・金刀比羅宮・大土社の3社を祀っています。主祭神は、「火之迦具土神」です。

戦国武将と ゆかりが深いお寺

津島市は、東海三県で寺密度がナンバーワンのまちです(名古屋外国語大学の学生の調査(平成30年)により判明)。市内に多く点在するお寺の中には、戦国武将とゆかりが深いお寺があります。歴史を紐解きながら、戦国武将ゆかりのお寺を訪れる旅に出かけませんか。

雲居寺 ⑦

服部小平太
ゆかりの寺



桶狭間の戦いで活躍した織田信長の家臣であった服部小平太の菩提寺。境内には五百羅漢が安置されています。

不動院 ⑨

織田信秀
ゆかりの寺



織田信長の祖父信定が、その息子信秀とともに連歌師宗長をもてなした正覚院は現在の不動院のこと。織田家の賓客の宿坊としての役目を果たしていました。

龍瀧寺 ⑪

平野長泰
ゆかりの寺



「賤ヶ岳の戦い」で活躍した七本槍衆の一人で、関ヶ原合戦後に家康公三代につかえた平野長泰ゆかりのお寺です。

観音寺 ⑧

織田信長
ゆかりの寺



織田信長公により、白山信仰の寺として絶大な加護を受けたことから、津島神社の社僧坊の1つでした。

妙延寺 ⑩

加藤清正
ゆかりの寺



加藤清正が幼少の頃に習字や仏法を学んだお寺です。妙延寺は、県下で戦国武将が学んだ最も古い寺子屋として知られています。

Check!

市内には、本ページで紹介したお寺以外にもたくさんのお寺があります。詳しくは、「津島散策マップ」をご覧ください。散策マップは、名鉄津島駅等に設置しています。



津島の旧跡

本町筋(上・下街道) ⑫



本町筋は上街道・下街道とも呼ばれ、今でも町家が立ち並ぶ歴史ある旧街道です。上街道は津島から勝幡・木田・甚目寺・新川を経由して名古屋までを結ぶ街道、下街道は津島から神守・万場・岩塚を経由して熱田までを結ぶ街道でした。下街道は、津島の追分で分かれて佐屋への道に分岐していました。

昔ながらの風景が残る本町筋周辺は、室町時代から姿を変えることなく、無秩序に屈折した細道が残っています。また商家の面影を残す格子戸、蔵、井戸などが見られ、何だかタイムスリップしたような気分になります。

津島神社道標 ⑬

本町筋から橋詰町に入る北西角に立つ大石柱の道標。明治29年(1896年)に尾西鉄道が開通した年に氏子が寄附したものです。大正3年(1914年)に尾西鉄道が名古屋鉄道に買収され、駅を今市場町に設けてから、津島神社の参拝者は、今市場通りから本町を経て、「左津島神社参宮道」と刻まれた道標をたよりに、神社へと向かっていました。



探してみて!

昔懐かしい3つの井戸

津島は、木曾川の豊かな水がもたらす伏流水が多く、井戸水に恵まれた土地でした。津島の古地図にはいくつかの町角に井戸が記入されています。これらの井戸は江戸時代に近隣住民の共同井戸として使用されていました。水道の発達に伴い井戸の存在を忘れがちな昨今、古井戸は貴重な存在です。本町筋には上切、堤下神社、坂口町の3か所に古井戸が残っています。



上切の井戸 ⑭



堤下の井戸 ⑮



坂口町の井戸 ⑯

津島の名所

堀田家住宅 ⑬



江戸時代中期に建てられた、津島の繁栄を物語る代表的な町家建築であり、国の重要文化財に指定されています。この住宅は、主屋と3棟の土蔵からなっていて、屋根には火事延焼を防ぐ「うだつ」や内玄関の広い土間には今は珍しい「荒神かまど」があります。また、抹茶文化の象徴である茶室を備えています。



津島市 観光交流センター ⑱

昭和4年(1929年)に建てられた鉄筋コンクリート造2階建の銀行建築。ルネサンス様式を基調。津島の各種祭のパネルや模型、地域物産の展示を通じて市の魅力を伝える観光施設です。国の登録有形文化財に登録されています。



津島に根づく「抹茶文化」

室町時代に始まった抹茶文化は、江戸時代に町人文化として根付き、津島では庄屋らが頻りに茶会を催していました。抹茶文化は、現在の津島にある町家にも残っています。客をもてなすための茶室があり、家によっては、複数の茶室を持っています。今も津島には日常生活の中で抹茶を楽しむ風習が残っており、茶室の公開や茶会が開催されています。



堀田家住宅の茶室



石臼

体験してみよう！ 抹茶体験

津島市観光交流センター敷地内の土蔵棟において、抹茶体験を行っています。

- 対応可能日** 開館日ならいつでも
- 所要時間** 約30分
- 事前予約** 必要(実施日の3日前までに電話で予約)
- 最少催行人数** 2人

【津島市観光交流センター】
営業時間：9:00～17:00 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
住所：本町1-52-1 電話番号：0567-25-2701



まだまだあるよ！ 津島の おすすめ スポット

天然記念物

イチヨウの木

市内には、樹齢数百年のイチヨウが、神明町と馬場町に2樹あります。いずれも県内屈指の巨樹で、県指定文化財(天然記念物)に指定されています。



神明町のイチヨウ ⑲



馬場町のイチヨウ ⑳



ろくじぞう 六地藏尊 ㉑

地藏菩薩の像を6体並べて祀った六地藏が津島にもあります。ここは珍しい六角形の灯籠型の地藏堂であり、昔ある家に盗賊が入ったとき、地藏菩薩が六人の僧侶に姿を変えて追い払ったとされ、まちの守り手として信仰を集めています。



じゅうおうどう 十王堂 ㉒

ここには十王と地藏菩薩をお祀りしています。閻魔王をはじめとする十人の裁判官が十王であり、死後天国に行けるか地獄に墮ちるかは、十王と地藏菩薩との話し合いによって決まるとされていました。

疲れたら少し休憩！

ポケットパーク

市内を散策する途中の休憩場所として使っていただけます。2か所あり、1か所はユネスコ無形文化遺産に登録された尾張津島天王祭、もう1か所は尾張津島秋まつりの山車・石採祭車を紹介しています。



天王通り ㉓



池須交差点 ㉔

つしまの 自然を感じよう

日本の歴史公園100選の1つ 天王川公園

25

四季折々の豊かな自然に恵まれた憩いの公園。1920年に開園し、「日本の歴史公園100選」に選ばれています。江戸時代まで当時のまちを南北に流れていた木曾川の支流である天王川がせき止められてできた池を中心に広がっています。天王川公園では四季折々の花や祭を楽しむことができ、春には桜と藤、初夏には睡蓮、秋には彼岸花が咲き、訪れた人を楽しませてくれます。また、4月は尾張津島藤まつり、7月には尾張津島天王祭の舞台となっており、公園は多くの人で賑わいます。



春

A 藤棚

壮大なスケールの藤棚は12種類の藤で満開になり、甘い香りが漂います。



B フラワーガーデン

ガザニアなど四季折々の植栽を楽しむことができます。



C 杉浦兼松博士顕彰碑

世界的な医学者でガン研究の権威者であった杉浦兼松の碑です。

その他の季節の花



春

桜



夏

睡蓮



秋

彼岸花

新しく生まれ変わった

天王川公園

天王川公園はここ数年の間に、野外ステージが新設されたほか、芝生広場、ジョギングコース、藤のトンネル、噴水、遊具広場の整備が行われました。



また、アメリカ生まれのコーヒーチェーンであるスターバックスがオープンしました。子どもから大人まで、幅広い世代の方々がゆったりと時間を過ごすことができます。



D 片岡春吉翁像

「毛織物の父」と呼ばれ尾張地方の毛織物産業の発展に貢献した、片岡春吉の銅像です。



F お旅所

尾張津島天王祭の日に、神様が祭をご覧になる場所です。



G ヨネ・ノグチ像

世界の美術史に名を刻んだ彫刻家のイサム・ノグチの父で、津島が生んだ世界的詩人ヨネ・ノグチの銅像です。



E 常夜灯

天王祭のまきわら船をイメージして造られた常夜灯。夜の公園を優しく照らしてくれます。



H 車河戸

尾張津島天王祭の祭船支度を行う場所。別名「祭河戸」とも呼ばれており、祭当日まきわら船と車乗舟がこの場所から出船します。



つしまのお祭りを楽しもう

美しい藤のカーテンは津島の春の象徴

尾張津島藤まつり

4月中旬から4月下旬

藤浪の里の名残を今に伝えるのが、毎年4月中旬から下旬にかけて行われる「尾張津島藤まつり」です。天王川公園には長さ275mの壮大なスケールの藤棚があり、陽光に照らされ鮮やかに輝く紫の群房から甘い香りが立ち込めています。藤棚下を流れる疎水の水面に映える藤の花はとても美しく、また、期間中の夜にはライトアップも行われ、光り輝く幻想的な藤の花も格別です。



春の夜のお楽しみ



藤棚のライトアップ

色鮮やかにライトアップされた藤棚は、日中とは違う魅力があります。夜に浮かび上がる藤の世界をお楽しみください。

織田信長も見たと言われる約600年続く華麗な祭

尾張津島天王祭

7月の第4土曜日とその翌日の日曜日

日本三大川祭りのひとつに数えられる「尾張津島天王祭」は、全国の数ある夏祭りの中でも最も華麗なものと言われています。津島神社の祭礼として600年近くの伝統を誇り、織田信長も見物した記録があります。「尾張津島天王祭の車楽舟行事」は国の重要無形民俗文化財に指定されており、「山・鉦・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されています。

天王祭は宵祭と朝祭だけでなく、様々な神事が行われます。

宵祭

5艘のまきわら船の提灯にロウソクの灯がともされると宵祭が始まります。船の上に半球状に1年を表す365個の提灯、中央高く真柱を立て1年の月数を意味する12個の提灯をかかげたまきわら船が丸池を悠々と進む姿は、豪華絢爛な時代絵巻のようです。



宵祭と朝祭以外の行事

- 宵祭前日  稚児打廻
- 宵祭当日の朝  神輿渡御
- 朝祭当日  神輿還御
- 朝祭当日  稚児奏楽

朝祭

津島の5艘に愛西の市江車を先頭に加えた6艘の車楽舟が登場。宵祭のまきわら船から大きく模様替えし、能人形を乗せて丸池を進みます。また、先頭の市江車から10人の鉦持(未婚の男子)が水中に飛び込み、お旅所まで泳ぎ、津島神社まで駆け抜け布鉦を神前に奉納します。

絢爛豪華で迫力がある秋の風物詩

尾張津島秋まつり

10月の第1日曜日とその前日の土曜日



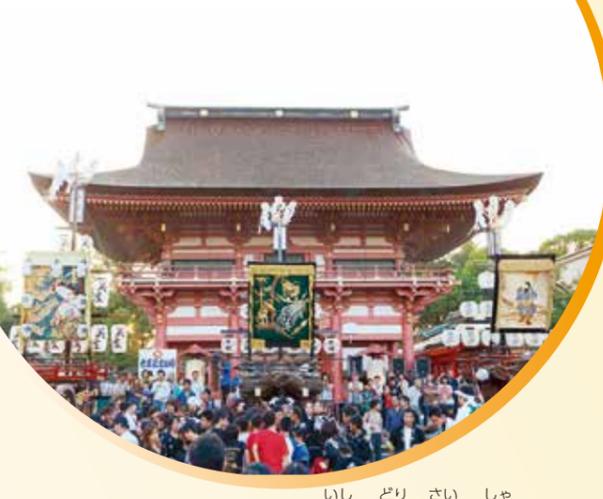
絢爛豪華な山車

七切、向島、今市場、神守の4地区から、絢爛豪華な山車16台が、市内をにぎやかに繰り出します。中でも目を引くのがからくり人形です。津島囃子に合わせて動くその姿は変幻自在で、文字を書くもの、空を飛ぶものなど、迫真の演技が観衆を魅了します。



威風堂々！春爛漫の神守山車

穂歳神社と憶感神社の祭りです。宝暦5年(1755年)以前に始まったとされる、桃色の花に囲まれた豪華な神守の山車です。



威勢のよい石採祭車

巨大な天幕をかかげ、威勢よく鉦や太鼓を打ち鳴らしながら町中を練り歩きます。北部・中部・南部の3車は大正4年(1915年)頃、唐臼町車は昭和31年(1956年)から始まりました。北部・中部・南部の石採祭車が一度に集結する、津島神社楼門前「石採祭車競演」は迫力満点です。



神楽

屋根には龍・唐獅子、城などの彫刻を飾っており、後方には太鼓と付太鼓がのせられています。秋まつり当日にはパチさばき鮮やかな太鼓と笛の音色が町内中に響き渡ります。

ダイナミックで力強い炎の祭

開扉祭 旧暦2月1日

開扉祭は、津島神社で年間に行われる90以上の祭典の中で、天王祭に次ぐ重要なもので、毎年旧暦2月1日に行われます。直径1メートル、長さ10メートルの点火された2本の大松明を担いで、一気に楼門をくぐり抜ける勇壮な火祭として知られています。松明の燃え残りは、田の虫除け・雷除けや、箸として使う歯痛除けに効き目があるといわれ、参拝者は争って持ち帰ります。



つしまの **名産** を堪能しよう

津島の長い歴史の中で多くの人に親しまれ、多くの人の手によって大切に受け継がれてきた津島の名産を紹介します。

古くから伝わる 津島神社ゆかりの縁起菓子 あかだ・くつわ

あかだは、うるち米の粉を熱湯でよくこねて、団子状にして、油で揚げたシンプルなお菓子です。平安時代に弘法大師が、津島神社に参拝した際に、疫病が流行していたため、悪疫退散を祈願して津島神社に供えたのが始まりで、参拝した人々に分け与えたところ、疫病が治ったと言われています。



くつわは、うるち米と餅米を熱湯でこねて蒸し、砂糖と黒ゴマを加え、油で揚げたお菓子です。津島神社の神事である茅の輪くぐりに使われる茅の輪を形どったもので、馬のくつわに形が似ていることから、この名前が付いたと言われています。



津島地域の 代表的な郷土料理 もろこ寿司

もろこ寿司は、もろこを醤油や酒、みりん、砂糖、生姜で甘辛く煮て押し付けた寿司のことです。もろこは、約5cmの淡水魚(コイ科)で、近年では漁獲量が減少しており、川魚の中では高級魚となっています。天王祭や秋まつり、結婚式、法事などで親戚が集まった時には食卓に振舞われた家庭料理でもあり、各家庭で作り方や味付けが異なっていました。



高たんぱく・ 低カロリーの 伝統食品 津島麩

津島麩は、小麦粉から生成されるたんぱく質の一種グルテンをひと口サイズに加工し、特殊な茹で方をする製造方法です。もちもちでキュッキュとした独特な食感で、歯ごたえがあります。たんぱく質を多く含み、消化の良い貴重な栄養源として多くの人に愛され、ひきずり鍋やうどん、茶碗蒸しの食材として広く使われています。



900年以上の歴史を誇る 和太鼓

日本人の生活習慣、とりわけ祭礼や神事には欠かせない和楽器である和太鼓。悪い精霊や敵を撃退するために、さらには警報や信号にも用いられ、暮らしの中で重要な役割を果たしてきました。津島の和太鼓は、900年以上の歴史を誇り、全国的に有名で各地から注文があるほどです。

ほどよい硬さの縁起菓子



あかだ・くつわ
540円

松儀商店 26

住所:馬場町9
電話番号:0567-26-2075
営業時間:10:00~17:00
定休日:不定休



あかだ・くつわ
540円

総本家角政 27

住所:馬場町7
電話番号:0567-26-2857
営業時間:8:00~19:30
定休日:第2・4水曜日



あかだ・くつわ
540円

あかだ屋清七 28

住所:祇宜町1
電話番号:0120-418-928
営業時間:9:00~18:00
定休日:水曜日

津島には歴史ある町が育んだ
おいしい・うれしい

お土産がいっぱい!

津島 おみやげ

自家製粉の米粉と
自家炊きあんこが
自慢!



草餅 150円

三木屋 29

住所:天王通り2-20
電話番号:0567-26-2758
営業時間:9:00~17:00
定休日:月曜日(祝日の場合は翌日)



天王祭を
イメージした最中

まつり最中
140円

柿屋饅頭 30

住所:橋詰町2-16
電話番号:0567-26-2885
営業時間:8:30~17:30
定休日:不定休

藤の香りを
そのまま再現!

ふじの
アイスクリーム
250円

あけぼの 31

住所:本町3-36
電話番号:0567-26-2848
営業時間:9:00~18:30
定休日:日曜日



夏バテ防止、疲労回復に効果あり!

こだわり甘酒の素
590円

糀屋 32

住所:本町1-57
電話番号:0567-26-8338
営業時間:10:00~17:00
定休日:日曜日、祝日



パンのような
可愛いおまんじゅう?

つし丸ぱんまんじゅう
141円

らく楽菓子舗 33

住所:天王通り5-46
電話番号:0567-26-4412
営業時間:8:30~19:00
定休日:水曜日

※金額、店舗情報(営業時間、定休日など)は令和7年1月時点の情報で、今後変更になる可能性があります。※金額は、全て税込み表示です。
※定休日に記載のない日も臨時休業となる場合があります。